

総合学域群とは

総合学域群には、総合選抜で入学した学生が所属します。総合選抜は、学類・専門学群の枠を越えて、文系、理系Ⅰ、理系Ⅱ、理系Ⅲという区分だけで選抜する、本学では新しい入試の方式です。

総合学域群には、選抜区分に対応した3つの類(第1類、第2類、第3類)があり、総合選抜により入学した学生は、いずれかの類に所属します。学生は1年次にさまざまな専門分野を学修した上で進みたい専門を見つけ、2年次以降は学類・専門学群に所属します。これを「移行」と呼びます。どの学類・専門学群に移行するかは、本人の志望と、入学後の成績や適性に基づいて決まります。文系、理系といった入試の際の選抜区分に関わらず、総合学域群からは、体育専門学群を除くどの学類・専門学群にも移行する道があります。

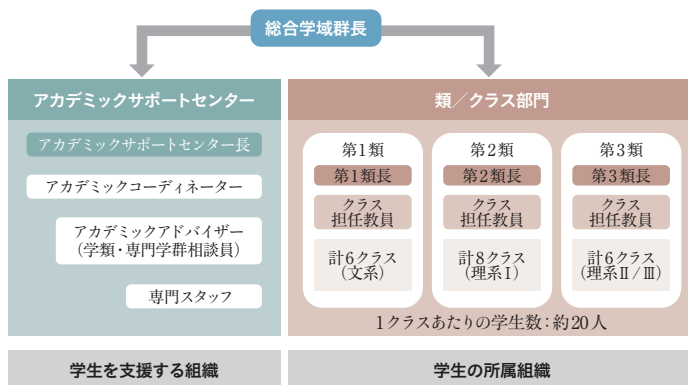
総合学域群

School of Comprehensive Studies

教育上の目的

総合学域群は、文系又は理系の区分のみを定めて行う入学者の選抜(総合選抜)による入学者が2年次に学類や専門学群に移行するまでの間、所属する組織です。総合学域群は、履修計画を中心に様々な修学支援を行うことを通じて、学生が幅広い視野から文理の区別にとられない学問的発想を磨き、そこから自らの関心に適した専門分野を選択することに資すること、さらに、こうした学びを通じて、将来のキャリアを主体的に切り拓く力を涵養する一助になることを教育上の目的としています。

総合学域群組織概念図



求める人材

総合選抜においては、大学において学問的な俯瞰をしながら専門分野を定め、自らのキャリアを主体的に切り拓くために必要な、十分な基礎学力に裏打ちされた多様な知的的好奇心と旺盛な学習意欲を有する人材を求めます。そのために入学前に、高等学校までの基礎学力をまんべんなく身につけると共に、自分の知的的好奇心を自由に深めていく柔軟な知性と感性を備えた人材を求めます。

入学後の履修

総合学域群の学生は、総合科目、外国語、情報などの共通科目と、学類・専門学群が開設する専門導入科目を中心に履修します。1年次はまだ学類・専門学群に所属していませんが、それらが編成する教育課程の一部を履修します。

総合学域群の学生が全学共通の必修科目以外で具体的にどの科目を履修するかは、学生本人の関心や、どの学類・専門学群を2年次以降の移行志望先とするかにより大きく異なります。各学問分野の入門的な科目となっている専門導入科目は、移行志望先を決めるのに重要な役割を果たします。

移行手続き

1年次の3月に、2年次以降に所属する学類・専門学群が決まります。移行先は、学生が設定する志望順位と、

学類・専門学群ごとに設定される受入順位の組み合わせによって決定されます。

学生が志望できる学類・専門学群の数には制限がありませんが、志望先によって指定科目の履修が必要となる場合があります。

各学類・専門学群の受入順位は、各学生が履修した科目の成績を総合した成績点と、英語外部試験や適性試験といった成績点以外の要素も加味して決定されます。また、特定の選抜区分で入学した学生を優先して受け入れる学類もあります。

サポート体制

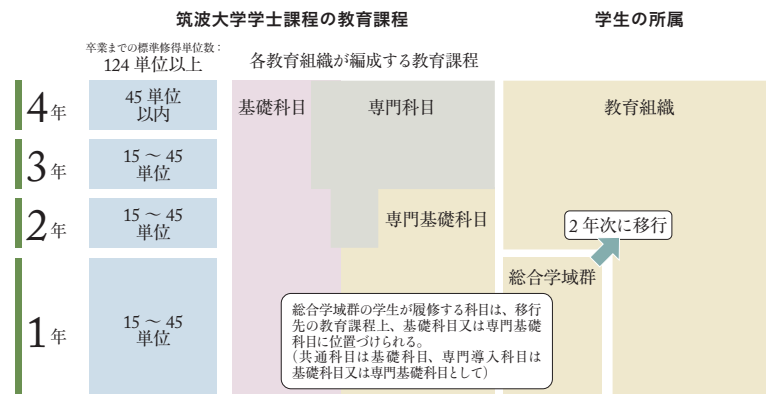
総合学域群の学生を支援するアカデミックサポートセンターを設けています。クラス担任だけでなく、アカデミックサポートセンターの教員や専門スタッフが、学生一人ひとりの履修計画や進路選択をサポートします。

専門導入科目 — 2年次以降の専門分野を選ぶ入り口—



※総合学域群からの移行先に体育専門学群は含まれない。

筑波大学学士課程の教育課程及び総合学域群の位置づけ(4年課程の標準的な例)



※図は4年課程の場合の例であり、総合学域群から医学類(6年課程)へ移行する場合も同様